

## 公大連 中国・四国地区協議会

2009年12月19日 於：ピュアリティまきび

参加組合：岡山県立大学教員組合、県立広島大学教職員組合

山口県立大学教職員組合

【公大連 中国・四国地区協議会に参加して】

県立広島大学教職員組合

書記長 竹本 康彦

これまでに首都大学東京、横浜市立大学が、現在では大阪府立大学が、設置者である自治体主導で大学としてのあり方を根本的に変えるに至っています。地区協議会に参加して山田事務局長の基調報告を拝聴し、法人化をはじめとする大学改変には、大前提であるはずの大学の理念や意義が欠落したままであると率直に思いました。大学が本来最優先で担うべき教育・研究を設置者である県は一体どのように理解しているか甚だ疑問ではあります。

公立大学の場合、文部科学省の意向だけでなく、設置者である県の意向や影響を少なからずとも受けざるを得ず、法人化した現在でもそれに変わりはないものと感じています。本学では、民主的選挙は一切なく、理事長・学長は知事指名、以下学科長に至るまでは理事長・学長からの指名となっており、運営上の重要事項はトップ・ダウン的に決まります。当然そこに民主的意向はなく、経営陣の独善的運営の危険を孕んだ体勢であると考えます。

この状況下において、性急に進められる制度がどのような影響を生んでいるのか等、各大学での事情を公大連加盟の組合を中心に他大学の組合と各種の情報を共有し、今後も緊密に協力関係を保ち、大学があらぬ方向に行かないようにしっかりと監視していきたいと考えます。「自主・民主・公開」を原則とする大学運営を目指していきたいと思っています。